

令和 6 年度

事業報告書

社会福祉法人 清 琉 会

社会福祉法人 清琉会

令和6年度 事業報告書 目次

● 総括	P1
● 法人動向	P2
● 玉川グリーンホーム	P5
○ 介護事業部	
◆ 施設相談課（入所相談担当）	
◆ 施設介護1～3課（介護担当）	
◇ 本館特養1係	
◇ 本館特養2係	P6
◇ 新館特養1係	
◇ 新館特養2係	P7
◇ ユニット特養1係	
◇ ユニット特養2係	
◆ 在宅介護課	P8
◇ 居宅介護支援係	
◇ 通所介護係	
○ 総務部	P9
◆ 総務課	
◆ 栄養課	P10
◆ 医務課	P11
● 高松山グリーンホーム	
● 愛甲グリーンホーム	P12
● 小町山グリーンホーム	P13
● 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター	P14
● 地域貢献事業等	P15
● 委員会活動	
○ 育成委員会	
○ 介護技術向上委員会	
○ サービス向上委員会	P16
○ 事故防止検討委員会	P17
○ 拘束廃止・虐待予防実践委員会	P18
○ I C T推進委員会	P19
○ 環境衛生委員会	P20
○ 防災対策委員会	P21

令和 6 年度 総括

介護保険制度スタートより 23 年が経過し、これまで年度途中で行われたものも含めると 13 回目となる介護報酬の改定でスタートした本年度。今回の改定においては地域包括ケアシステムの深化・推進などと併せて、良質な介護サービスの効率的な提供に向けた「働きやすい職場づくり」が明示され、人材の確保と並行して効率化や職場環境の継続的見直しを図るなど、ソフト、ハード両面からの取り組みが求められ、当法人としても全力で取り組んで来ました。法人全体としての記録システムの変更や、玉川グリーンホームにおけるユニット棟浴室の改修など、決して少なくない予算も費やし労力を注いできたのは、さらに厳しさを増して行く高齢者介護の現場において、法人としての持続可能性を高めていくために他なりません。単年度で結果を出せないものもありますが、次年度以降の更なる改善に繋がるものになったと感じております。

対策や対応が求められたのは高齢化や労働人材の減少と言った社会的環境の変化のみならず、新型コロナなどの感染症対策や地震など自然災害に対しても同様であり、それぞれに BCP（Business Continuity Planning：事業継続計画）の作成・見直しが必須となりました。年度に先立ち令和 6 年元日に発生した能登半島地震は、改めて自然災害に対する取り組みを問い直してきました。平成 6 年の阪神淡路大震災から 30 年が経過し、私たちのような高齢者施設のみならず社会全体での対応についても議論が続けられてきたと思いますが、被災された方々の支援については遅々として進まずにもどかしさを感じたり、現在の備えでは心もとないと感じてしまったりする部分もあり、災害時の自助と互助について再考を迫られました。

BCP について研修や訓練を繰り返してきましたが、職員一人ひとりの意識については差が感じられることもあり、担当職員に多くを任せてしまうことが散見されました。全ての業務に通じる事です仕事において一番大事なものは目的意識であり、担当職員はあくまでも旗振り役で、取り組みについては全職員が目的や自身の役割を理解して積極的に動く事が理想とされます。何故このような取り組みが必要か、法人の、またチームの目指すべき方向はどこかなど、根幹となる部分から正確に伝えて行く事はリーダー的立場にある者の重要な役割と理解していますが、法人トップの力不足もあり十分に機能出来なかったと反省しております。

それでも一年を通じて献身的に努めてくれた職員の皆さんには、感謝しかありません。「ひっそりとでも我慢強く春を待つ蕾のように（『ガチ桜』より）」。今は明確に見えなくとも、全ての活動が今後に繋がると理解して、ビジョンの共有などチーム力向上の取り組みを加速させ、次年度以降に繋げて行こうと決意する年度でありました。

法人動向-

理事会開催状況

開催日	審 議 事 項	出席者数	
		理事	監事
令和 6 年 5 月 24 日	1 令和 5 年度事業報告及び令和 5 年度計算書類等の承認の件	6 名	2 名
	2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の件		
	3 定時評議員会の招集の件		
	4 給与規程改定の件		
6 月 14 日	1 玉川グリーンホームユニット棟 1 階浴室改修工事入札参加事業者選定の件	5 名	2 名
9 月 24 日	1 玉川グリーンホーム神奈川県指導監査に対する改善報告の件	5 名	2 名
	2 玉川グリーンホームユニット棟機械浴購入の件		
	3 令和 6 年度第一次補正予算（案）の件		
令和 7 年 3 月 24 日	1 令和 6 年度第二次補正予算（案）の件	6 名	2 名
	2 令和 7 年度事業計画（案）の件		
	3 令和 7 年度予算（案）の件		
	4 評議員選任・解任委員会委員選任の件		
	5 育児・介護休業等に関する規則、並びに就業規則一部改正の件		
	6 ICT 導入支援事業費補助金申請における物品購入等の件		

監事監査

開催日	監 査 事 項	出席者数
令和 6 年 5 月 16 日	1 令和 5 年度理事の業務の執行について 2 令和 5 年度法人の財産の執行について	2 名

評議員会開催状況

開催日	審 議 事 項	出席者数
令和 6 年 6 月 14 日	1 令和 5 年度計算書類・財産目録承認の件 2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の承認の件	8 名

調査等実施状況

◆老人福祉法及び社会福祉法人等指導監査実施要項に基づく定期指導監査

【 神奈川県高齢福祉課 】

実施日：令和 6 年 7 月 9 日

対象施設：特別養護老人ホーム

来所人数：神奈川県高齢福祉課監査グループ 2 名

◆介護保険法に基づく介護給付対象サービス運営指導【 厚木保健福祉事務所 】

実施日：令和 7 年 2 月 6 日

対象事業所：小町山グリーンホーム

[サービス種類] （介護予防）特定施設入居者生活介護

来所人数：厚木保健福祉事務所保健福祉部保健福祉課 7 名、

厚木市市民福祉部介護福祉課 2 名

事業所申請関係

◆令和6年度介護職員等処遇改善加算

- 4、5月：処遇改善加算Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅱ、ベースアップ等加算
6月以降：介護職員等処遇改善加算（新加算）Ⅱ

事業所（サービス）

介護老人福祉施設玉川グリーンホーム（介護福祉施設）

ユニット型介護老人福祉施設玉川グリーンホーム

（介護福祉施設、短期入所生活介護）

玉川グリーンホーム（通所介護、（介護予防）短期入所生活介護）

小町山グリーンホーム（（介護予防）特定施設入居者生活介護）

以上、神奈川県に申請

高松山グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

愛甲グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

玉川グリーンホーム（通所型サービス（総合事業））

以上、厚木市に申請

補助事業申請関係

◆令和6年度神奈川県介護保険事業費補助金（ICT導入支援事業費補助金）

法人で使用している介護保険制度システムの更新期でもあり、上記補助金を活用してハード、ソフト両面の改善に取り組み、業務の効率化、そこから繋がるサービスの向上を図りたいと申請を行いました。しかし、当該補助事業の発表が例年よりも遅く、また例年よりも補助の枠も少なかったのか定かではありませんが、申請額に対する補助決定は2割程に留まりました。

事業総額 26,070,000 円

補助申請額 11,857,470 円 補助決定額 2,600,000 円

◆公益財団法人JKA（機械振興補助事業（福祉機器・医療機器の整備））

上記補助事業を活用して、玉川グリーンホームユニット棟の機械浴槽の入れ替えを行いました。ご利用者の重度化に対応するため、今までの座位浴のものからシャワーバスタイプの仰臥位浴に交換し、ご利用者と職員双方の負担軽減に繋がりました。

事業総額 6,278,800 円

補助申請額 4,709,100 円 補助決定額 4,709,100 円

*他に浴室自体の改修工事費（全額法人負担）として15,455,000円計上。

●玉川グリーンホーム

○介護事業部

◆施設相談課（入所相談担当）

相談対応については、丁寧な説明、相談者の要望に応じた情報を提案できるよう努め、内容により法人内事業所の情報を提供しています。また、相談内容については相談係内で共有し、相談員個人ではなく係として検討しています。

入退所検討委員会を通して、入所の必要性について、身体状況、健康状態、医療処置の必要性、介護者の状況、緊急度等、多様な角度から検討を重ね、入所候補者の選出ができています。法人事業所間では、情報を共有し、身体状況に応じてスムーズな移行ができています。

令和6年度は新規入所者40名、退所者39名、（入退所共に転ベッド含む）となりました。退所が続くことにより、空床期間が長期化してしまうことがありましたので、更に、入所までの期間短縮となる方策を検討していきます。空床ベッドについては、緊急ショートステイやミドルステイの受け入れを積極的に行い、そのまま入所に繋がるケースも見られています。今後も、有効活用できるよう各関係機関と連携し対応していきます。

面会については、ご利用者、ご家族の想いと感染対策の双方からの検討を重ね、一部制限を緩和して行い、ユニット特養では居室内での面会としています。今後も世間情勢などに鑑みて、検討していきます

◆施設介護1～3課（介護担当）

◇本館特養1係

ご用者に寄り添ったケアの提供については、職員間でご利用者に対する関わり方で良かったケア、上手いかなかったケアなどを共有し、その方に合った介護支援（個別支援）を考察し実施しています。しかしながら、業務がスムーズに行えていない場合などには、ケアが十分に行き届かないこともあり、言葉遣いや業務の効率化を含め、まだまだ努力が必要だと感じています。

働きやすい職場環境の構築については、職員一人ひとりの気づきや意見について、発言しやすい環境づくりに取り組んでいます。カンファレンスや申し送りなどしっかりと時間を設定することにより、意見を伝える場が確保でき活発な意見交換ができています。

ご利用者に原因不明な外傷（内出血や皮膚剥離など）が数件発生してしまったことは、大いに反省しなくてはならないと感じています。職員間で丁寧なケアとはどのようなケアか確認し合い、職員一人ひとりが高い意識をもちケアに当たれるよう

努めます。

感染症対策では、令和7年に入りインフルエンザ感染、コロナウィルス感染が発生し、複数人に拡大してしまいました。感染疑いのご利用者の初動対応が遅れてしまったことが反省点として挙げられます。今後もスタンダードプリコーション（標準感染対応）の意識を高め、ご利用者が安心できる環境作りに努めます。

◇本館特養2係

すべての事柄に対し、「丁寧」に取り組むことを目標に掲げ、取り組んでいましたが、個々の姿勢、意識にズレが生じており、お互いに声を掛け合うことで、新たなトラブルに発展してしまうケースもありました。今一度、目標を共有し“一人一人が考えながら行動する”、“お互いに声を掛け合い尊重する”。これらを原則に、明るく向上心のある現場を目指します。

前年度に比べて皮膚疾患の発生件数（重度の褥瘡）は減少しています。医務課と情報共有し連携を強めることで早期発見・早期治療に繋がり、重症化のリスクを減らせています。今後は、保湿剤軟膏などを効果的に使用することで表皮剥離などの皮膚トラブルの減少も目指します。

職員間で声掛けを積極的に行いながら、技術面や体力面での負担を補い合い介助を進めています。各種研修に参加しやすいようセクション内で業務調整しながら技術の取得を目指しています。ワーカー間では介護方法に関して、意識のズレから意見の相違が生じてしまう課題もありますが、改めてチーム（組織）として目標を共有し、個々の意見を尊重しつつ、ご利用者に合った支援を考察し、決定した方法については画一的に実施できるよう目指します。

◇新館特養1係

今年度は皮膚疾患を予防するために、日々、皮膚観察を行い、係内や医務課、ご家族と情報共有し清潔保持や保湿に努めた結果、改善傾向がみられています。時には、改善と悪化を繰り返す皮膚疾患の方もおり、職員間でどのようなケアが必要かを話し合い、医務課や栄養課と連携し、検討を重ねています。今後も日々の観察はもちろん、必要に応じ、変化を確認した際の情報共有、改善方法を職員間で検討し、スキンケアに努めていきます。

感染症については、今年度も感染症の拡大を予防することが出来たのは、日々の環境整備を徹底の成果だと思います。今後も日々の清掃や消毒、換気を徹底し、同事業所サービスのご利用者の状態等も共有しつつ、仮に感染症が発生した際でも、迅速に適切な対応が行えるよう努めます。

ショートステイの稼働率については目標達成には至りませんでした。ご利用者の満足度を上げ、ご利用の定着していただけるよう、小さな変化にも目を配り、体調の変化を見落とさず、体調変化時にも迅速な対応に努めつつ、介護技術面では、ベ

テラン職員から経験の浅い職員へ介助技術を指導するなど、技術の向上にも努めます。

◇新館特養2係

BPSD（認知症による周辺症状）が顕著に現れるご利用者の増加に伴い、介護中のセクハラ行為や暴力行為が散見され、そのような方々の介護には苦慮しました。ご本人が穏やかに過ごし、また介護職員も安全に介護ができるよう、日々の行動観察を十分に行い、関わり方や内服薬の服用タイミングを医務課と連携し、対応しています。対応方法の工夫や業務改善を通し、改善傾向がみられることがあり、今後もPDCA（計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)を繰り返すことにより、対応方法などを継続的に改善していく手法）サイクルを意識し、ご利用者の方々が穏やかな生活を送れるように努めます。

環境整備では、ご利用者が気持ちよく生活を送れるよう各居室の整理整頓や整容を心掛け、実施しています。まだまだ、十分ではなく課題もありますが、今後も常に清潔な環境が保てるように清掃や整理整頓への意識を高めます。

看取り対応については、ご本人、ご家族の希望に沿った最期を迎えられるよう、ご家族がご面会に来られた際には日々の様子の報告だけでなく、ご家族の思いにも耳を傾け、思いに寄り添った看取り介護を心掛けています。今後ご本人やご家族の思いを尊重し、丁寧な介護に努めます。

◇ユニット特養1係

今年度は、不定期での実施になってしまっていたカンファレンスを定期的に行えるよう、業務整理を行い計画的に実施いたしました。ご利用者の課題や業務課題において各職員の意見を吸い上げ、検討する機会を設ける事で積極的な行動、統一したケアの推進に繋がったと思います。次年度も継続しケアの向上に繋がります。職員育成については、各職員の業務担当を明確にし、責任感の向上を図るよう努めました。積極性は高まるなど一定の成果は見られましたが、まだまだ、課題が多くあると感じており、次年度も引き続き取り組みます。

12月にユニット特養の機械浴が新設され、座位保持が困難なご入所者への入浴が可能となりました。安心、安全な介助、業務効率化の向上に繋げるよう努め、1係、2係連携し、この入浴設備を最大限に活用していきます。

感染予防については、コロナウィルス感染症、インフルエンザ感染症がユニット1係、2係内で拡大してしまう事がありました。初期対応や状況による判断が遅く、対応が後手になってしまうことにより拡大に繋がってしまったなどの課題が挙げられます。今回の感染症拡大を教訓に、今後の感染予防に活かしていきます。

◇ユニット特養2係

職員の急な体調不良等での勤務変更が多くありましたが、ユニット1係との連携

し、協力し合いながら対応しています。12 月に新たに特殊浴槽が設置された際も、1 係と相談の下、スムーズな導入ができています。

感染症対策については、1 月末にインフルエンザ感染症が拡大してしまいました。初動対応の遅れが感染拡大を招いてしまったと感じています。今後は、スタンダードプリコーションを徹底し、感染症疑いのご入所者については、感染防止のための隔離対応などスムーズに実施するなど、今回の件を教訓に同じ過ちを繰り返さないよう対応をしていきます。

丁寧な言葉遣いについては、新たに加入した職員の丁寧な言葉遣いに導かれるように他の職員も意識の向上がみられ、改善が図れています。今後も職員間で声掛け合いながら更なる質の向上を目指していきます。また、ご家族とご利用者の架け橋となれるよう、面会時にご様子を伝えるだけでなく、普段のご様子を写真におさめメッセージ等を添えご家族へ送付しています。ご利用者、ご家族の安心に繋がるよう今後も継続していきます。

◆在宅介護課

◇居宅介護支援係（ケアマネジャー）

介護報酬改定により、入院時情報連携加算（Ⅰ）は 200 単位から 250 単位に増加され、当日の情報提供となり、入院時情報連携加算（Ⅱ）は、100 単位から 200 単位に増加され、3 日以内の情報提供と要件が厳しくなりましたが対応できています。

また、特定事業所加算Ⅲの単位数が 309 単位から 323 単位に増加となりましたが、算定要件に多様化・複雑化する課題に対応するための取組を促進する観点から、「ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等に参加していること」が追加されています。厚木医療福祉連絡会ケアマネジャー部会に役員として係わり、他法人が運営する居宅介護支援事業所との合同研修会の開催等と合わせて対応できています。

その他、中重度者や支援困難ケースの対応、年間研修計画を基に週 1 回事業所内会議・研修の開催、緊急時の対応、公正中立で質の高いケアマネジメントの実施を行うことにより、特定事業所加算Ⅲの算定の継続ができています。

地域の事業者は、依然として訪問介護事業所の人員が不足している状況が続いています。特に七沢地区は、市内の訪問事業所では対応困難と利用ができない現状ですが、伊勢原市の事業者に依頼することによりサービス提供・在宅支援ができています。

計画件数としては、昨年度の 1,226 件から 1,263 件へと 37 件増加することができています。

◇通所介護係（デイサービス）

体調不良による利用控え、当日キャンセルが多くありました。実績としては、一日平均利用者数は 20.21 名で目標の 22.5 名以上は達成できませんでした。これは、11 月より非常勤職員がケガや病気で療養休暇、産休等に入り、以前のような職員体制が組めなくなったこと。やむを得ず、上席者と相談しながら新規利用者の受け入れを控えたことがあります。

改善案としては、新規利用者の獲得やキャンセル時の振替利用、利用日の増加、調整をご利用者やご家族、居宅介護支援事業所などへ提案していきます。次に、ケアの充実や統一、業務効率の向上や統一を図ります。ケアや業務の改善のアイデアが職員間で誘発されより前向きで活発なチームとなるよう、提案を広く奨励し、試行・改善・実践を繰り返します。また、新たなケア記録システムを活用し、業務効率を上げケアの充実へ結び付けます。連絡やケース会議を短時間でも開催していきます。そして、ご利用者ご家族向けのアンケート調査の機会を設け、得られた情報を参考にしながら、日々の実践を分析し改善していく客観的な視点や目安となるように、より精度の高いケアや業務改善へと繋がります。

取り組みとしては通常の通所介護サービスの他にご利用者同士や職員とも交流が図られ、地域と繋がる有意義な居場所となるように玉川公民館祭りの作品出品へ向けた取り組みや季節を感じられるようなフラワーアレンジメントの機会などをご利用者とともに実施しました。

感染症対策としては今後もご利用者が安全で安心できる環境を維持できるように、新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルスなどの予防を送迎時にも実施し、強化に努めながら、安定した稼働率も確保できるように励んでまいります。

○総務部

◆総務課

令和 6 年度はユニット特養入所者の重度化に対応する為、公益財団法人 JKA における「自転車等機械振興事業に関する補助金」を活用し機械浴槽を導入いたしました。それに伴う浴室改修工事では予想以上の工事費がかかってしまいましたが、職場環境整備の一環として実施いたしました。

また設備・備品等についても経年劣化が著しく、スプリンクラーポンプ室の修繕は令和 5 年度にも行いましたが、他の箇所から不具合が発生しており、業者に原因調査等対応依頼し継続中となっております。他にも洗濯機等の入れ替え等様々な突発修理が発生しましたが、早急な対応に努めました。日頃より入所者やご利用者のサービス提供に支障がでないよう、現場職員にも不具合を早期発見し報告するよう周知し、また日頃から誤った使用方法での故障がでないように注意喚起するなど管

理面の徹底に努めました。

令和6年度も様々な物資や光熱費、更にはお米や生鮮野菜等の高騰が相次ぎ財政面では厳しい社会環境となりましたが、毎月の運営会議にて光熱費の状況報告を行い、節電・節水等の協力を呼びかけ、県の物価高騰対応支援金の申請を行うなど対策にも努めました。

前年に引き続き職員の健康管理推進の為、希望者には厨房で調理した栄養バランスの良い昼食弁当を安価で提供するなど、働きやすい環境作りにも努めました。産休・育休や介護で休職取得等の職員も出ており、年間を通じてホームページや求人広告で求人活動を行いましたが、思うように応募がなく、派遣も利用しながら人員不足に対応しました。

法人の窓口としては、入所者・ご利用者はもとより、来訪者の方等に不快な思いをさせないように「和顔愛語」を意識して親切な対応を心掛け、適切に対応いたしました。

◆栄養課

ご入居者、ならびにご利用者に「食」を通じて喜びを感じて頂けるよう、さまざまな行事食や季節に合わせたイベント食など含め、日々の食事提供業務に努めて参りました。

また、ご利用者全体の摂食嚥下機能低下により、昨年度以上に多職種連携を強化し、身体状況や栄養状態の把握に努め、栄養ケア・マネジメントを行いました。食事形態の変更や補助食品の併用が増えながらも、安心安全な食事提供を常に心掛け栄養課業務に努めました。

職員の健康管理推進の協力として、希望される職員にはお弁当提供を行い、また、法人設立記念日など年間数日ではありますが、記念日などには職員への食事提供の協力を行いました。

食品衛生については HACCP(ハサップ)を基準とし、食品納品時の温度管理から調理後の温度管理を細かくチェックし結果を記録に残し日々食品衛生を最重要視し調理業務に努めました。また、環境整備も今年度は重点的に見直し、日々の清掃業務に反映させ清潔な環境下での調理を心掛けました。

感染症対応は他セクションとの連携を図り、お弁当箱対応など感染拡大防止に努め栄養課内でもマスクの着用、手洗い、換気の徹底を行いました。また職員間でもコロナウイルスやインフルエンザの感染者が出ましたが、感染対策を徹底し感染拡大は最小限に抑えられました。

引き続き職員の健康管理をしっかりと行い、より良い食事提供が出来る様、努めて参ります。

◆医務課

ご利用者の異常の早期発見・早期対応に努め、嘱託医である厚木佐藤病院と連携し健康管理を、また治療の継続として服薬管理や処置を行ってまいりました。また介護職員が安心して業務に取り組むことができるよう、円滑なコミュニケーションと関係づくりに努め、ご利用者の情報交換や援助方法のアドバイスをを行い、異常の早期発見や早期治療につなげてきました。高齢になると抵抗力の低下、持病の悪化や体調不良を起こすことは避けられないことではありますが、体調不良による苦痛が最小限となるよう今後も対応してまいります。

施設内看取りの対応として、ご利用者の状態と今後の変化など、家族や介護職員に情報提供するとともに、嘱託医の見解を踏まえご利用者がより良い最期を迎えられるよう調整してまいりました。今年度は38名の退所（全退所人数40名から、ユニット型特養から従来型特養への転床2名を除く）の内、26名の施設内看取りを行い(68.42%)、ご家族や介護職員と共に穏やかなお見送りのお手伝いできたと思っています。施設内看取りに同意していても最期は病院で迎えるケースもあり、今後も臨機応変に対応できるよう関わってまいります。

今年度は、インフルエンザワクチン接種、肺炎球菌ワクチン接種、新型コロナ肺炎ワクチンの接種を行いました。新型コロナやインフルエンザ感染症のクラスターはありませんでしたが、ユニット1・2Fでのインフルエンザ感染拡大があり、介護職員への対応の助言を行ってまいりました。今後も新型コロナ感染症をはじめ、インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス感染症の発症の可能性は常に想定されるため、予防としてのスタンダードプリコーションの徹底、感染時の対応等、状況に応じ医療面での対応をと関係各所との調整・指導を柔軟に対応してまいります。

介護課の負担軽減のため、リネン交換の協力や、ケアワーカーが現場を離れずに業務が継続できるよう各セクションへのラウンド回数を増やし坐薬や下剤の補充など行ってまいりました。今後も医務課内のコミュニケーションを円滑にし、関係各所に協力していききたいと思います。

●高松山グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

今年度は入退居者が例年に比べると少なく、入居者3名、退居者2名でした。また、入院者2名、入院日数も延べ58日と前年度よりも少なかったため、年間稼働率は98.45%と前年度を上回りました。これは、ご利用者が心身ともに安定した生活を送られたからだと思います。

一方で加齢や認知症の進行により身体機能の低下・重度化が進み、平均介護度が3.00（前年度2.24）となっています。グループホームと特別養護老人ホームでの生

活のどちらがご利用者に適しているか見極めご家族とも相談しながら、法人内で情報を共有しスムーズに移行できるようにしていきたいと思います。

介護事故 4 件（外傷 2 件、落葉 1 件、骨折 1 件）、ヒヤリハット 39 件と前年度よりも減少しています。事故の予防策については、カンファレンスを行い再発防止に努めました。

新型コロナウイルスを初めとする感染症については、幸いご利用者への感染はありませんでしたが予断を許さない状況は続いているので引き続き標準予防策を徹底してまいります。

言葉遣いや立ち居振る舞いについては事あるごとに話をしているものの、なかなか理解を得られないのが現状です。個々には出来ている面はあってもチームとしてはまとまっていないため、次年度の課題として取り組んでまいります。

介護過程の実践については 3 年目を迎え、ご利用者お一人おひとりに根拠に基づいた適切なサービスを提供できるように取り組んでいましたが、結果的には足踏み状態であったと思います。次年度は一步一步進んでいけるよう努めてまいります。

四季に応じたイベント、地域の皆様のご理解とご協力によりご利用者も喜んで地域行事に参加させていただきました。この関係を更に発展していけるよう、また有事の際には頼れる施設となるように努めてまいります。

物価や光熱水費等の価格高騰により、今まで以上に省エネ、節約、ムダをなくすことが求められています。目標値を設定し可視化することにより職員一人ひとりが意識し取り組むことで成果として現れてきています。これからもムダのないよう、そして業務の改善と効率化にも繋がるよう努めてまいります。

●愛甲グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

感染予防に努めて参りましたが、12 月末～1 月の初旬にて利用者・職員のコロナウィルス感染症が発生しました。長期化せず終息することができましたが、気を緩めず標準予防（スタンダードプリコーション）を徹底し、自分自身を守りながら利用者の安全に努めて参ります。

実績に関しましては、計画目標の 95%は達成でき、前年度より僅かではありますが増加することができました。今後もスムーズに空室のご案内ができるよう努めて参ります。

思いに寄り添うケアの実現を目標に掲げました。個々の生活リズムを把握し、他スタッフの取組みなども共有してケアを実践しました。重度認知症の方のケアに関しては、チーム内でカンファレンスを実施し、家族にも協力をしていただきながら思いに寄り添えるよう実践いたしました。ただ認知症ケアは、職員の心身を疲弊す

ることもあります。今後はストレスマネジメントの重要性を理解し、職員の抱えるストレス原因や対処法を考えながら、ケアに取り組んでいくことが課題といえます。認知症ゆえの繰り返される訴えや言動についてうまく対応できず、口調が強いといった光景もありました。今後も十分に注意して、立ち振る舞いや言動すべてを丁寧に取り組んで参ります。

施設内の事故報告は5件とあり、前年度より6件減少できました。すべて転倒事故とあり、利用者の筋力の低下が原因です。筋力維持を目標とし、安全に生活できるようにリハビリ訓練などを継続して取り組んで参ります。

地域交流としまして、地域の催しに積極的に参加させていただきました。利用者の中で愛甲の住所の方も増えてきています。催しに参加しますと、地域の方々との顔見知りもあり、気軽に声を掛けていただける機会がありました。地域密着型施設として、頼れる施設という存在価値をPRしていきたいと思えます。

●小町山グリーンホーム

(サービス付き高齢者向け住宅(特定施設入居者生活介護))

専門職としての自覚と成長に関しては、ご利用者様、ご家族様に対しては丁寧な対応を心掛けると共に、時には時間をかけて相談を伺うことで信頼を築き、個々の経験を活かしたきめ細やかな支援を提供することができましたが、チームとしてはお互いの立場や心情を理解した言動が図れず、同じレベルで仕事を行っていく協調性に欠ける部分が見られ、個々の仕事量に差が生じてしまいました。

安心・安全な支援の取り組みとして計画としていた3か月毎の計画(P)、実行(D)、評価(C)、改善(A)作業は、4か月毎と減少しつつも統一した支援を提供することができました。課題として、記録システムの取り扱いに個人差があるため、来年度に導入される記録システムの機能を一人一人が理解し、より多くの情報を集めサービスの向上へ活かせるように努めてまいります。

楽しい食事提供に関しては、甘辛さの選択、飲み物の選択を可能とし希望者へは朝食はパンの提供を開始、様々なサンドパンの提供、ラーメン、スパゲティなど今までにないメニューにより、楽しく食事をしていただきました。今年度はHACCP(※)の考え方を取り入れた衛生管理と残食把握に取り組みました。

※HACCP(ハサップ)とは、Hazard Analysis and Critical Control Pointの略称で「危害要因分析重要管理点」と訳される現在世界で信頼されている衛生管理手法です。

●厚木市玉川・森の里地域包括支援センター

認知症サポーター養成講座では、初めて七沢希望の丘初等学校と森の里ぐるっと運行協議会で開催することができ、大きな成果となりました。居宅介護支援事業所や介護保険サービス提供事業所とも、継続して良好な関係を続けることができており、ご利用者へのスムーズな対応につながっています。

自主開催事業「ふれあいデイサービス」では、長年利用されていた方が介護認定を受けて利用終了となった方も数名おりましたが、定期的に新規利用者も入り増加傾向です。「介護家族健康相談」も同様に、新規利用者も入りほぼコロナ前の状態に戻っています。

国保年金課主催の「フレイル予防教室は」は盛会のまま3年が終了し、新年度より主催が市から民間(一般社団法人スポーツミーム)へ移行となります。今までのような包括の積極的な関与も無くなりますが、今後の動向を注視して適宜連携を図って参ります。

令和6年度の新規相談人数は179人で、前年度(158人)より約13%増加しました。相談者のうち58人がひとり暮らし高齢者、82人が2人暮らし(高齢者世帯等)で、合計で78.2%を占めます。単身や核家族化が進む中での相談が顕著となっています。介護認定新規申請者数も99人で、こちらも前年度(83人)より約20%の増加となっています。

しかし、年々増加傾向であった要支援1・2及び事業対象者への介護保険利用(ケアプラン作成)は、10月以降減少傾向となりました。年間1,484件となり前年度(1,419件)より約4.5%の増加に留まりました。新規申請で要介護の認定を受けられる方が多く、区分変更で要支援から要介護になられた方も多くいらっしゃったことが考えられます。

また、新規ひとり暮らし老人登録者が30名と過去最多で、3月末日現在で総登録者数が139人となりました。認知症を発症されたおひとり暮らしの方の成年後見制度利用支援では、申請できる親族が不在で市長申し立て要請を行った方が2人おりました。年々難しい相談も増えており、これまで以上に多くの関連機関とネットワークを組んでの総合支援が重要となっています。

引き続き、これら地域の実情は『玉川・森の里見守り支え合い会議』等でも報告し、地域の方と情報共有しご意見をいただきながら、地域ぐるみで事業を展開・環境整備を目指して、「地域包括ケア社会」の中核機関としての機能が十分に発揮できるよう取り組んで参ります。

●地域貢献事業等

○配食サービス（安否確認を目的とした配食事業）

栄養バランスのとれたお弁当を届けると共に、コミュニケーションを図り安否確認を行いました。提供食数は前年度より更に減少しており、地域の実情などを考慮し必要な取り組みに繋げてまいります。

○かながわライフサポート事業（伴走型自立支援事業）

今年度3件の相談支援を実施しました。病気やけが、新型コロナウイルス感染症などによる就労困難や離職、事業破綻を原因として事業による支援が求められました。独居の方が2名でしたが、もう1名の方は高齢の親と同居されており、本人はもとより、同居の老親も含めた早急な対応が必要と判断し支援に入りました。

今年度の相談支援の始まりについては、相談者との繋がりとは全て厚木市の担当課でありました。今後は必要とされた際には直接お問い合わせがされるよう、事業についての周知が必要と感じました。

●委員会活動

○育成委員会

今年度は看取りに関する研修、キャリアアップ意向調査の実施をいたしました。

毎年、看取りに関する研修会を実施しておりますが、今回は口腔ケアに重点を置き、看取り期での口腔ケアの重要性を学び直すために、動画研修の実施をし、介護実践にいかすことにいたしました。

育成計画の参考資料の作成に向け、キャリアアップの意向調査をアンケート方式で実施いたしました。アンケートを通して、どのような資格を取得したいのか、資格取得するにあたって、どのようなフォローアップが求められているのかを知ることが出来た他、将来のビジョンを自身で考える良い機会となりました。

1. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R6. 8. 1 ～R6. 8. 31	看取りに関する研修	委員会 メンバー	166 名
R6. 12. 1 ～R6. 12. 15	キャリアアップ意向調査	—	140 名

○介護技術向上委員会

今年度の当委員会は、認知症ケア・フレックスボード・食事口腔ケア・喀痰吸引・

褥瘡予防の研修を行いました。今年度は、フレックスボード研修では少人数対面式での実技講習を3回に当委員を対象として実施することが出来ました。委員から各自セクションへの周知を実施しています。また吸引研修では動画視聴研修に加え、希望者に吸引機を用いた実技研修を実施しました。

昨年度同様、研修内容がいかに現場に生かされ、ご利用者や職員の安心安全に繋がるようアフターケアが今後の委員会としての業務構築課題であります。

次年度に向け、毎年行う研修は固定動画としフォルダにまとめて各セクションで取り纏めてもらう等、簡略化しつつ、目標ビジョンを明確化しステップアップの道筋を委員会で意識統一することで、さらなる介護技術向上を目指してまいります。

1. 研修会開催

開催日	テーマ	担当	参加人数
R6. 8. 1 ～R6. 8. 15	認知症ケア	廣田、松坂	162 名
R6. 9. 20 R6. 10. 18 R6. 11. 15	フレックスボード研修	原、前場、田中(康)	12 名
R6. 12. 1 ～R6. 12. 15	喀痰吸引研修	原、大里	109 名 実技 8 名
R7. 1. 16 ～R7. 1. 31	誤嚥を防ぐ食事介助	田中(亮)、畑中	125 名
R7. 2. 17 ～R7. 3. 3	褥瘡の予防と栄養	高橋(理)、田中(康) 大道	139 名

○サービス向上委員会

当委員会では、各サービスについての苦情・相談に対し、法人が定める苦情解決事業実施要綱に準じ適切な対応に努めてきました。

今年度は苦情・相談が2件、要望書が1件と、今年は少ない件数となりましたが、職員の不適切な対応に関するご指摘をいただいております。ご家族、ご利用者へ丁寧な説明、理解していただき、普段からコミュニケーションを図り連絡方法などについても改善に努めていかなければと感じています。

サービス向上に向けた取り組みとしては、法人の全職員を対象に6月に「倫理規定について」、11月には「介護現場におけるハラスメントについて」をテーマとした研修を行いました。委員会で作成した資料や動画を視聴して全職員がアンケート

に答えました。清琉会の倫理を振り返り全職員が共通の認識を持ち業務に取り組める機会となりました。また、ハラスメントについて正しい知識を持ち、施設全体でハラスメント防止策を重視し、適切な対応、相談しやすい雰囲気、個人としてではなく、チームとして、施設として取り組みを統一し働きやすい環境にしていくことが重要です。今後もサービス向上に繋げられる具体的な取り組みが実践できるように促していきたいと思っています。

1. 苦情・相談受付件数 2 件

玉川グリーンホーム 本館特養 1 係 1 件

愛甲グリーンホーム 1 件

2. 要望書受付件数 1 件

小町山グリーンホーム 1 件

3. 苦情相談外部委員会の開催

第 1 回苦情相談全体委員会 令和 6 年 11 月 (上半期)

第 2 回苦情相談全体委員会 令和 7 年 3 月 (下半期)

4. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R6. 6. 14 ～R6. 6. 30	倫理規程について	委員会 メンバー	165 名
R6. 11. 1 ～R6. 11. 15	介護現場におけるハラスメントについて	委員会 メンバー	153 名

○事故防止検討委員会

今年度の取り組みとして事故の再発防止へ向け事故後に定期的にカンファレンスの機会を設定し各セクションで見直す事を統一したルールや重大な事故が発生した場合は法人内で早急に周知出来るような仕組み作りを提案しました。さらに来年度へ向けての持ち越しとして離設マニュアルの作成を検討しています。

定期的には四半期毎にセクション単位でヒヤリ・事故の集計・分析を行い法人全体で情報共有を行いました。研修では年に 2 回、事故発生防止（リスクマネジメントについて）と事故発生（緊急時対応、誤嚥・窒息について）の研修を実施し、同時に施設についての注意喚起を行い職員個人の知識や意識向上へ努めました。

1. ヒヤリハット、介護事故発生状況

各事業所・セクション名	ヒヤリハット	事故
玉川グリーンホーム		
本館特養	67	19

新館特養 1 係	84	15
新館特養 2 係	95	18
ユニット特養	102	21
デイサービス	9	1
栄養課	76	0
医務課	4	2
高松山グリーンホーム	34	4
愛甲グリーンホーム	47	4
小町山グリーンホーム	129	46
合計	647	130

2. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R6. 10. 1 ～R6. 10. 20	事故発生防止 再発防止対策 リスクマネジメントについて	委員会 メンバー	156 名
R6. 12. 1 ～R6. 12. 20	事故発生防止（緊急時の対応） 誤嚥・窒息の対応について	委員会 メンバー	157 名

○拘束廃止・虐待予防実践委員会

今年度当委員会は、全職員を対象に「身体的拘束等の適正化のための研修」を 2 回、「高齢者虐待防止の研修」を 3 回実施しました。また、例年行っている「高齢者虐待防止に係る一斉点検」の振り返り研修については、年度をまたぐ形となりますが振り返り研修で出た意見をもとに各事業所・セクションで改善すべき課題・目標をあげ、3 ヶ月の実施期間を設け再評価する長期的な研修とさせていただきました。また、「高齢者虐待防止に関する指針」の見直し・改正を行い、書類の整備及び周知を行いました。

次年度に向け、研修はもちろん、高齢者虐待防止に関する指針を基に虐待防止マニュアルの作成、身体拘束等の適正化と虐待防止に向けた啓発活動を積極的に進め、全職員に対し適切な知識や情報の共有、ご家族等のご理解・ご協力とご利用者の安心・安全につながるよう努めてまいります。

1. 身体的拘束適正化検討委員会

第 1 回 令和 6 年 4 月 17 日

第 2 回 令和 6 年 7 月 17 日

第3回 令和6年 10月16日

第4回 令和7年 1月15日

第5回 令和7年 3月27日

今年度の身体的拘束適正化委員会は例年4回（3か月以内）の開催ところ、次年度に向けて調整し5回開催しました。各事業所における身体的拘束について現況を確認・情報を共有しています。現状では身体拘束は行なわれておりませんが、虐待につながる可能性のある不適切なケア等が見受けられ、法人全体での課題と捉え改善に向けて取り組んでまいります。

2. 研修会開催

開催日	テーマ	実施内容	参加人数
R6. 6. 25 ～R6. 7. 9	虐待防止研修「よりよい介護をめざして」～不適切なケアを考える（居室・リビング・夜勤編）～	動画視聴 ・アンケート形式	160名
R6. 7. 25 ～R6. 8. 8	身体的拘束等の適正化のための指針の研修	穴埋め問題 ・アンケート形式	164名
R6. 9. 1 ～R6. 9. 14	身体的拘束等の適正化のための研修「スピーチロック」編	動画視聴 ・アンケート形式	163名
R6. 12. 1 ～R6. 12. 15	虐待防止研修 高齢者施設における虐待防止に係る一斉点検	自己点検シート (チェックリスト)	162名
R7. 2. 1 ～R7. 2. 10	虐待防止研修 高齢者施設における虐待防止に係る一斉点検の振り返り研修	アンケート形式	147名

○ICT推進委員会

機関誌「清琉」発行につきまして、浴室改修や各イベントの写真掲載など法人の魅力をも十分に引き出すべくさまざまな話題を提供し、また、読みやすさを意識して、紙面構成にも力を入れ、読まれた方からご好評をいただきました。制作費用については、引き続き、印刷通販業者を活用してコストダウンに繋げるよう取り組みました。

今年度の研修会について、近年、インターネットやSNSの普及に伴いプライバシーや個人情報の重要性が増しており、介護の現場でも「個人情報とプライバシー」の問題と接していることを強く意識することが求められています。このような事情により、ご利用者が安心して利用できる施設となるよう「個人情報とプライバシー

の保護の理解」について実施しました。法人内全職員対象に動画を視聴し、各自にて個人情報保護・プライバシー保護に関する設問に答え、アンケートを提出していただきました。全職員が個人情報の理解を深めるための機会になったと感じられました。

ブログの管理・更新について、WEB 上でも法人の魅力が伝わるよう積極的に発信しました。各イベント、外出、レクリエーション、日々の健康体操など、介護施設の取り組みを紹介、また、機関紙「清琉」と同じく、求職者が入職後の働き方や将来像をイメージしやすくなるよう、訴求力にも着目しました。

1. 機関誌「清琉」制作

第 73 号 令和 6 年 9 月 30 日発行

第 74 号 令和 7 年 3 月 31 日発行

2. ホームページの月間予定等お知らせ、ブログの管理・更新

3. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R7. 1. 4 ～R7. 1. 25	個人情報とプライバシー保護の理解	委員会 メンバー	156 名

○環境衛生委員会

令和 6 年度は 11 回の委員会開催、3 回の研修と 2 回の訓練を行いました。

各セクション単位で研修、訓練をおこない感染症対策への意識、技術の向上に繋がったと思います。また環境整備についての研修も行い普段行き届かない清掃、整理にも着手でき環境整備の重要性も周知出来たと思われる。

疥癬やコロナ、インフルエンザなど感染症発生も数件あったが、有事の際に正しく実践出来る様、今後も繰り返し研修・訓練を重ねていく必要がある。また環境整備についても引き続き継続し、ご利用者が快適な環境で生活できる様務めると共に、労働衛生安全にも反映させていきたい。感染症対策や衛生管理等、衛生委員が中心となり今後も活動していく。

1. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R6. 7. 4 ～R6. 7. 31	高齢者施設における 食品衛生管理	岩淵	149 名
R6. 9. 5 ～R6. 9. 30	安全衛生教育 職場でのストレス対策	高島	156 名

R6. 10. 3 ～R6. 10. 31	嘔吐物の処理	本多・ 鈴木（美）	153 名
R6. 12. 5 ～R6. 1. 5	高齢者施設における環境整備の重要性	濱田（愛）・ 木村・林	155 名
R7. 2. 6 ～R7. 2. 25	感染症対策と感染症 BCP	北幅（健）	131 名

○防災対策委員会

各事業所の立地条件により起こりうる災害や業務継続計画に基づいた内容を取り入れた訓練を実施しました。また、今年度より義務化となった業務継続計画に基づいた訓練、研修内容について、委員会内で検討し、各事業所で有意義な訓練、研修を行うことが出来ました。今回の実施したことにより、新たな課題や気づきもあり、有意義な時間となりました。

今年度は各事業所の耐震設備を見直し、キャビネットやロッカー、冷蔵庫等横倒しの危険性のあるものについて突っ張り棒を設置しました。またヘルメットの在庫数を再確認し、各事業所へ振り分け、設置場所の再検討を行いました。非常食に関しては、消費期限を確認し入れ替えを行いました。定期的に防災用具の点検や非常食の見直しを行い、有事に備えていきます。

1. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R6. 6. 17 ～R6. 7. 8	業務継続計画に沿った研修① 発電機の使用について（作動） 発電機の使用について（動画研修）	委員会 メンバー	126 名
R6. 8. 15 ～R6. 8. 31	業務継続計画に沿った研修② 災害時の応急処置について	委員会 メンバー	145 名